

# 長崎県感染症発生動向調査速報（週報）

2024年第15週 2024年4月8日（月）～ 2024年4月14日（日） 2024年4月18日作成

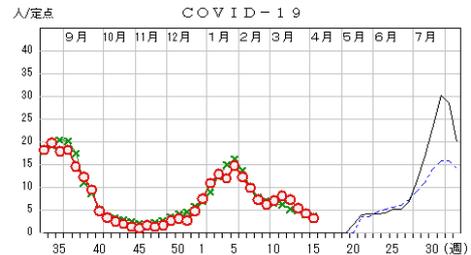
## ☆定点報告疾患（定点当たり報告数の上位3疾患）の発生状況

### （1）新型コロナウイルス感染症

第15週の報告数は228人で、前週より64人少なく、定点当たりの報告数は3.26であった。

年齢別では、80歳以上（33人）、60～69歳（28人）、70～79歳（27人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、対馬保健所（14.33）、上五島保健所（7.33）、長崎市保健所（3.71）であった。

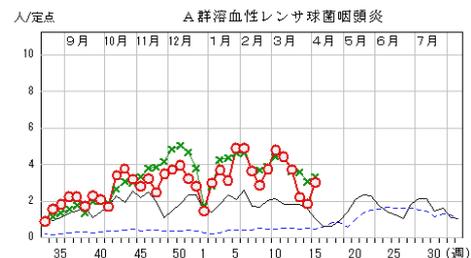


### （2）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

第15週の報告数は133人で、前週より54人多く、定点当たりの報告数は3.02であった。

年齢別では、6歳（20人）、4歳（16人）、5歳（16人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、県南保健所（11.00）、西彼保健所（5.25）、県央保健所（3.29）であった。

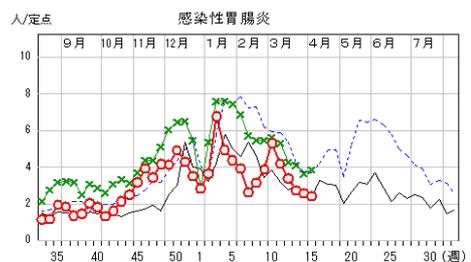


### （3）感染性胃腸炎

第15週の報告数は107人で、前週より4人少なく、定点当たりの報告数は2.43であった。

年齢別では、3歳（15人）、1歳（11人）、6歳（11人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、佐世保市保健所（4.00）、長崎市保健所（3.70）、県北保健所（3.67）であった。



○—○ 当年(長崎県)      — 前年(長崎県)  
 ×—× 当年(全国)      - - - 前年(全国)

※インフルエンザ/COVID-19定点数：70、小児科定点数：44、眼科定点数：8、基幹定点数：12

## ☆上位3疾患の概要

### 【新型コロナウイルス感染症】

第15週の報告数は228人で、前週より64人少なく、定点当たり報告数は3.26でした。地区別では、対馬地区（14.33）、上五島地区（7.33）、長崎地区（3.71）は他の地区より多くなっています。多くの地区で前週より減少していますが、今後も動向に注意しましょう。

本疾患の主な症状は、発熱、咳、全身倦怠感等の感冒様症状で、主に飛沫感染や接触感染により感染します。場面に応じたマスクの着用や手洗い、換気、三密の回避などの基本的な感染対策に努めましょう。

【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

第15週の報告数は133人で、前週より54人多く、定点当たりの報告数は3.02でした。地区別にみると県南地区（11.00）は、警報レベル開始基準値「8.0」を超えていますので、今後も予防に努めましょう。

本疾患の好発年齢は5歳から15歳で、鼻汁、唾液中のA群溶血性レンサ球菌を含む飛沫などによってヒトからヒトへ感染します。また、食品を介しての経口感染もあります。潜伏期間は約1日から4日で、突然の発熱（高熱）、咽頭痛、全身倦怠感、時に皮疹もあります。急性期患者の感染力は強いですが、適切な抗菌薬の投与により、多くは1日から2日後には症状も消失し、感染力も著しく低下します。不十分な治療は無症状保菌者を生じやすいため、早めに医療機関を受診するとともに、手洗いを励行し、感染防止に努めましょう。

【感染性胃腸炎】

第15週の報告数は107人で、前週より4人少なく、定点当たりの報告数は2.43でした。地区別にみると佐世保地区（4.00）、長崎地区（3.70）、県北地区（3.67）は、他の地区より多くなっています。

本疾患は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。原因はノロウイルスやサポウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、腸管出血性大腸菌などの細菌が原因となる場合もあります。

手洗いの励行とともに、体調管理に注意して感染防止に努め、早めに医療機関を受診しましょう。

**★トピックス：マダニやツツガムシが媒介する感染症に注意しましょう**

マダニ類やツツガムシ類は、野外の藪や草むらに生息しているダニで、野生動物が出没する環境に多く生息しているほか、民家の裏山、裏庭、畑やあぜ道などにも生息しています。マダニ類は「日本紅斑熱」や「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）」を媒介し、ツツガムシ類は「つつが虫病」を媒介します。これらの感染症の報告数は、ダニの活動が活発になる4月から増加します。

マダニ類が媒介するSFTSは、発熱、消化器症状が主な症状で、重症化して死亡することもあります。県内では2024年第15週までに3件の報告があります。近年、SFTSを発症したネコ及びイヌの症例が確認されており、これらの動物の血液や糞便からSFTSウイルスが検出されています。SFTS以外の感染症に対する予防の観点からも、動物を飼育している場合は過剰な触れ合いを控え、動物由来の感染に注意しましょう。

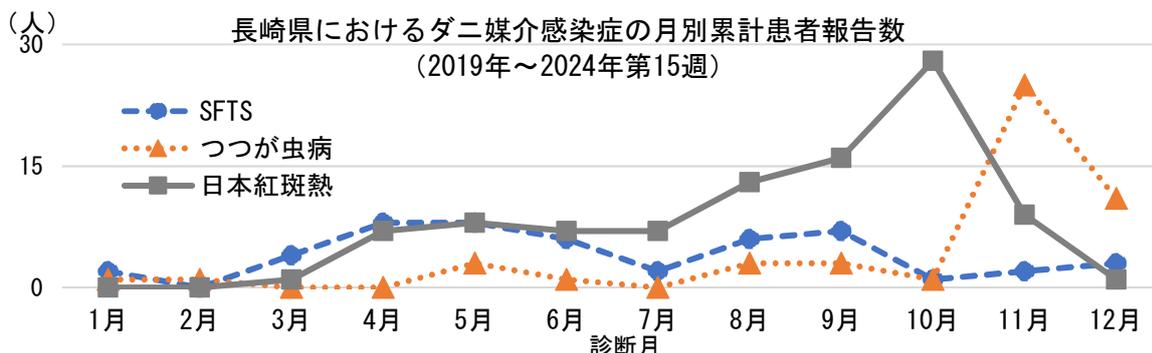
マダニ等が媒介する感染症の予防には、ダニに咬まれないことが重要です。野外で活動する際は、長袖、長ズボン、長靴を着用するなどして肌の露出を極力避けて感染防止に心がけましょう。もし、マダニ等に咬まれていたことに気づいた場合、無理に取り除こうとせず、皮膚科等の医療機関で適切に処置してもらいましょう。また、咬まれた後に発熱等の症状があった場合は、速やかに医療機関を受診しましょう。受診した医療機関では、咬まれた状況などをできるだけ詳細に説明しましょう。



長崎県におけるダニ媒介感染症の発生件数

年	2019	2020	2021	2022	2023	2024
SFTS	8 (2)	6 (0)	6 (1)	13 (3)	13 (0)	3
日本紅斑熱	15 (1)	18 (0)	28 (4)	22 (1)	14 (0)	0
つつが虫病	1 (0)	11 (0)	14 (0)	7 (0)	15 (1)	1

※( )は第15週までの発生件数

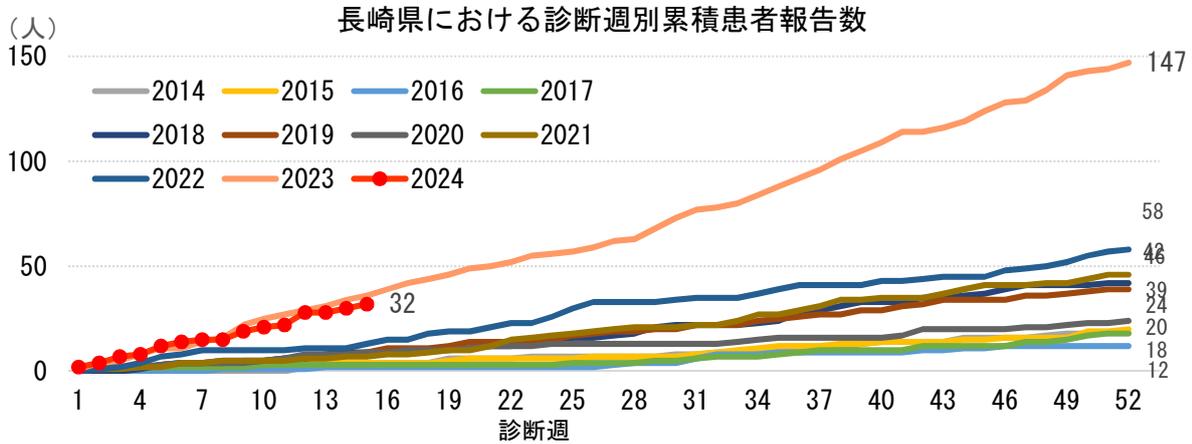


☆トピックス：梅毒の患者数が増加しています

長崎県では2023年に147件の梅毒の報告があり、現行の調査が開始されて以降、過去最多の報告数となりました。2024年は第15週までに32件の報告があがっています。

梅毒は早期診断、早期治療が重要ですので、感染が疑われる症状がみられた場合、感染の不安がある場合には、早期に医療機関を受診しましょう。また、県内の保健所では、無料の相談・検査を受けます（事前の連絡・予約が必要）。感染を予防するには、コンドームを適切に使用することや感染のリスクとなる不特定多数の人との性的接触を避けることが重要です。

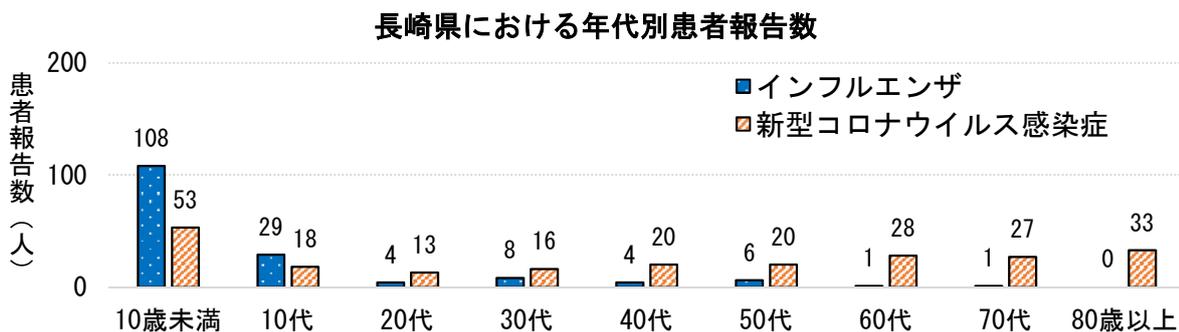
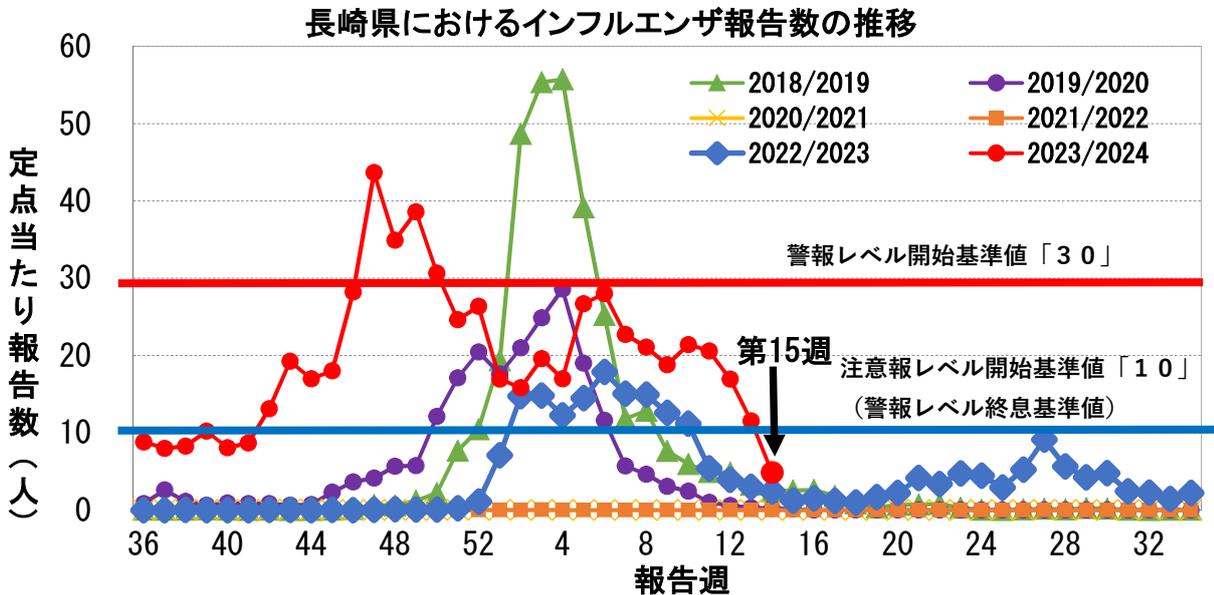
発生状況は、長崎県感染症情報センターホームページ内「梅毒の発生状況」に掲載しています。



☆トピックス：第14週にインフルエンザの流行警報が解除されました

インフルエンザの2024年第15週の定点当たりの報告数は「2.30」で、5週続けて減少しました。前週（第14週）に警報レベル終息基準値「10」を下回り、流行警報が19週ぶりに解除されました。地区別にみても、警報、注意報を超えた保健所はありませんでした。

報告数は減少を続けていますが、今後も手洗い・手指消毒、適切なマスクの使用、換気などの基本的な感染対策を励行し、予防に努めましょう。



◆全数届出の感染症

2類感染症：結核 患者 男性（70代・2名、80代以上・1名） 無症状病原体保有者 女性（60代・1名）
3類感染症：報告なし
4類感染症：レジオネラ症 患者 男性（80代以上・1名）
5類感染症（全数把握対象）：カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 患者 女性（80代以上・1名） 急性脳炎 患者 女性（10歳未満・1名） クロイツフェルト・ヤコブ病 患者 男性（70代・1名） 侵襲性肺炎球菌感染症 患者 男性（40代・1名） 梅毒 患者 男性（20代・1名、40代・1名）

◆定点把握の対象となる5類感染症

(1) 疾病別・週別発生状況 (第10～15週、3/4～4/14)

疾患名	定点当たり患者数					
	10週	11週	12週	13週	14週	15週
	3/4～	3/11～	3/18～	3/25～	4/1～	4/8～
インフルエンザ	21.42	20.58	16.94	11.54	4.87	2.30
新型コロナウイルス感染症	7.07	8.17	7.23	5.41	4.23	3.26
RSウイルス感染症	0.05	0.21	0.05	0.19	0.35	0.61
咽頭結膜熱	0.93	1.30	0.93	0.91	1.30	1.14
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	4.79	4.42	3.72	2.21	1.84	3.02
感染性胃腸炎	5.30	4.19	3.37	2.74	2.58	2.43
水痘	0.09	0.05	0.07	0.09	0.07	0.16
手足口病	0.42	0.42	0.49	0.26	0.23	0.41
伝染性紅斑（リンゴ病）		0.02			0.02	
突発性発しん	0.35	0.30	0.28	0.26	0.23	0.30
ヘルパンギーナ	0.07	0.02				
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）					0.07	
急性出血性結膜炎	0.13	0.13				0.13
流行性角結膜炎	1.00	1.25	0.88	0.50	0.38	0.75
細菌性髄膜炎		0.08				
無菌性髄膜炎	0.17	0.08				
マイコプラズマ肺炎		0.08		0.08		0.08
クラミジア肺炎（オウム病は除く）						
感染性胃腸炎（ロタウイルス）						

(2) 疾病別・保健所管内別発生状況 (第15週、4/8～4/14) ※赤字：警報レベル、青字：注意報レベル

疾患名	定点当たり患者数（県・保健所管轄別）										
	県	佐世保市	長崎市	壱岐	西彼	県央	県南	県北	五島	上五島	対馬
インフルエンザ	2.30	3.73	2.59	0.33	0.67	2.18	3.00	5.00	0.50	0.33	
新型コロナウイルス感染症	3.26	2.00	3.71	2.00	2.00	2.64	1.75	3.00	1.25	7.33	14.33
RSウイルス感染症	0.61	0.83	0.90		0.25	0.43	0.80	1.00			1.00
咽頭結膜熱	1.14	1.17	1.10	1.00	0.50	0.43	0.60	6.33	1.00		
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	3.02	0.33	1.40	0.50	5.25	3.29	11.00	2.00	1.00	2.50	1.50
感染性胃腸炎	2.43	4.00	3.70		2.00	2.57	1.80	3.67			
水痘	0.16	0.67	0.30								
手足口病	0.41	0.33	0.20		1.00			3.33			
伝染性紅斑（リンゴ病）											
突発性発しん	0.30	0.33	0.10		0.75	0.43	0.40	0.67			
ヘルパンギーナ											
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）											
急性出血性結膜炎	0.13						1.00				
流行性角結膜炎	0.75	1.00					4.00		1.00		
細菌性髄膜炎											
無菌性髄膜炎											
マイコプラズマ肺炎	0.08	1.00									
クラミジア肺炎（オウム病は除く）											
感染性胃腸炎（ロタウイルス）											